

# 測地学会誌の新編集方針

測地学会誌をより多くの会員が参加して拡充していくために、以下のように編集方針を変更する。これにより測地学会誌を測地学に関する総合科学雑誌とする。

1. 原稿の範囲を広げる(具体的説明は別紙参照)。  
学術論文(原著論文)だけでなく測地学に関係する情報を広く交換する場を拡充する。  
そのために、次のように項目を多様化する：
  1. 原著論文。
  2. 寄書。
  3. テクニカルレポート。
  4. データベース・資料集。
  5. 総合報告。
  6. 解説・入門講座。
  7. 紹介。
  8. フォーラム。
  9. 本会記事。
  10. その他:その他の原稿。
2. 編集委員会が積極的に原稿を集める。
  1. 投稿原稿を待つだけでなく、編集委員会が投稿を勧誘する。
  2. 総合報告、解説・入門講座などを企画し原稿を依頼する。
  3. 依頼原稿に対しては状況に応じて謝礼を支払う。
3. 審査方法の簡明化をはかる。  
原著論文などの査読チェック項目をより基本的な事項に整理する。このことにより従来に比べて生じやすくなると恐れられる原著論文などの質の低下、査読者間での評価の違いなどは、編集委員会の責任を含めて学会誌の投書欄 フォーラム において議論できるようにする。
4. 投稿から受理、印刷までのサイクルの短縮をはかる。  
投稿から受理、出版までの期間のいっそうの短縮をはかるための技術的可能性を検討する。前項 3 も結果としてこの短縮化につながると考えられる。
5. 学会誌のカラー化をはかる。  
論文中のカラー図表、カラー写真など通常の印刷物より費用がかかる原稿の著者負担料を明確化し、これらの増加を促進する。必要に応じてカラーグラビア、写真ページを設け、解説を付す。ただし、学会の財政的負担と関係する。
6. 編集委員長および一部の編集委員の任期を延長する。  
現在任期1年の編集委員の任期を2年とし、編集委員会活動の継続性と一貫性の

確保をはかる。編集委員の約半数は交代する。ただし、編集幹事は実務が過大なので現行通り1年交代とする。

## 測地学会誌の記事項目(前項(1)の説明)

測地学に貢献する可能性を有する原稿は、その形式の如何を問わず採択する方向で審査する。具体的には、原則として以下のカテゴリーに分けて編集する。

1. 原著論文:これまでと同じカテゴリー、同じ形式の原稿。原則として刷り上がり10ページ以内。
2. 寄書:これまでと同じカテゴリー、同じ形式の原稿。原則として刷り上がり4ページ以内。ただし、研究だけでなく教育方法の高度化に関する原稿にも拡張する。
3. テクニカルレポート:測定機器、観測方法、ソフトウェア、数式の解法、など広い意味で技術的進歩に貢献すると考えられる原稿。原則として刷り上がり10ページ以内。
4. データベース・資料集:測地学に関係するデータ、記録、文献、などを系統的に収集・整理・分類し研究者の便宜に供する原稿。資料本体の量が多い場合は電子媒体によって資料提供を行うことを原則とする。
5. 総合報告:本会に関係する諸分野の最新のテーマについての総合報告の原稿。原則として刷り上がり10ページ以内。従来の「報告」を含む。
6. 解説・入門講座:本会会員にとって必要と考えられる問題に関する解説あるいは入門講座の原稿。原則として刷り上がり10ページ以内。
7. 紹介:著書、論文、研究集会、機器、ソフトウェア、など新情報に関する原稿。原則として刷り上がり1ページ以内。従来の「書評」を含む。
8. フォーラム:学会員による意見の表明・交換の原稿。掲載された論文や学会の方針に関する議論もこの場を使用する。原則として刷り上がり1ページ以内。
9. 本会記事:本会の運営に関する報告・連絡・情報。さらに、関連学会などの本会に関する活動に関する情報の原稿。
10. その他:その他編集委員会が妥当と認めるもの。

「注」:ここで言う1ページは、文字のみの場合1800字程度(45文字,40行 現行通り)の文を意味する。

1998年5月20日

1998(H9)年度編集委員会

1997(H9)年度および1998(H10)年度編集委員長 河野 芳輝